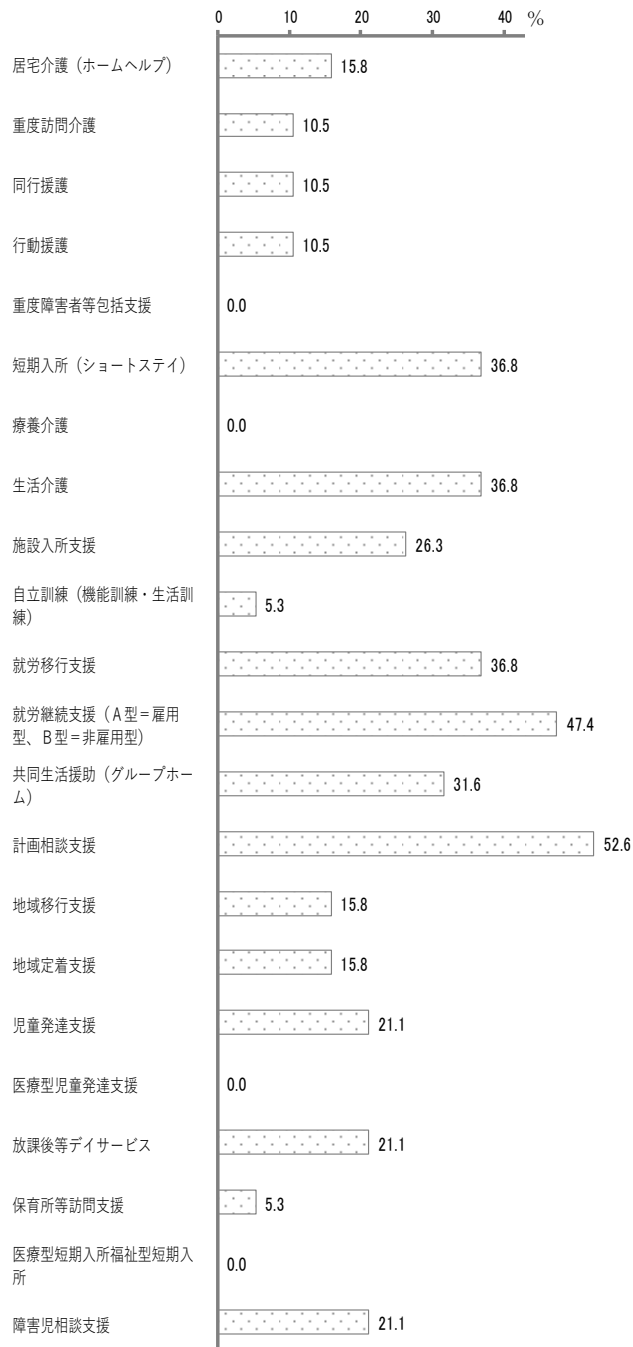


## ② サービス提供事業者

問1 貴事業者で提供している障がい児・者に対する自立支援給付等サービスに○をつけてください。また、今後提供を考えているサービスに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

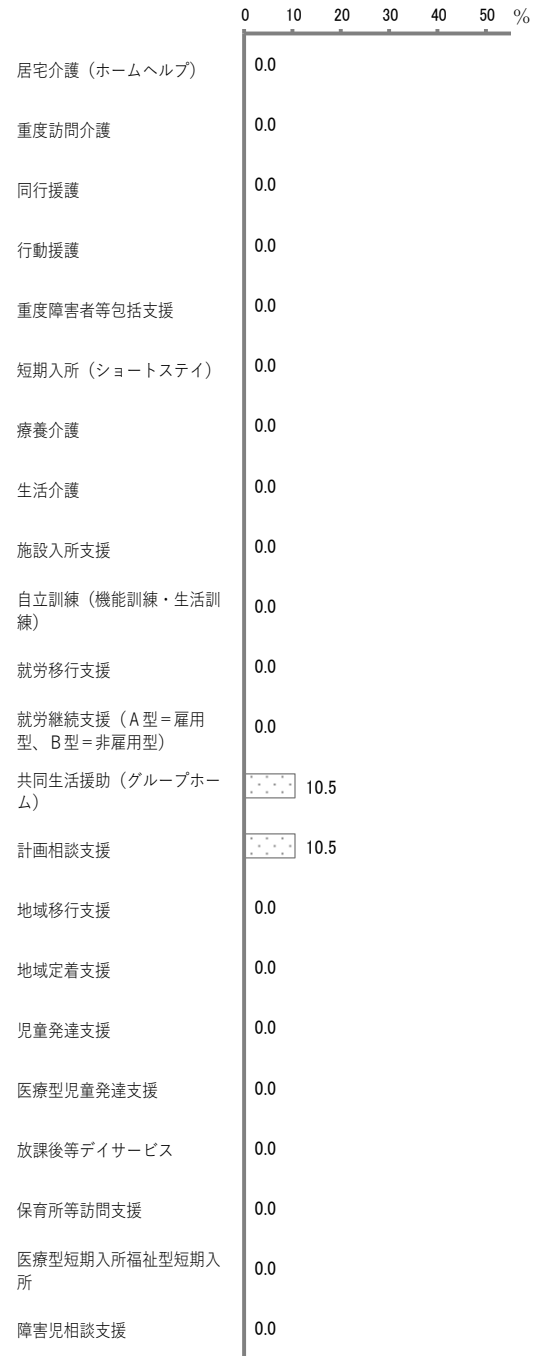
### A 提供しているサービス

回答者数 = 19

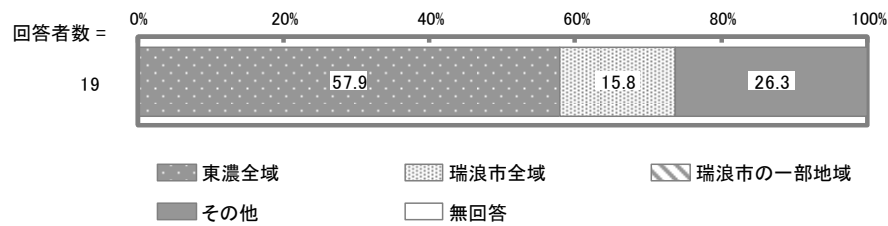


### B 今後提供を考えているサービス

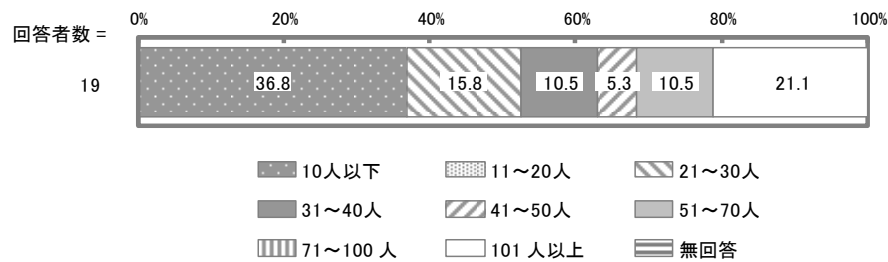
回答者数 = 19



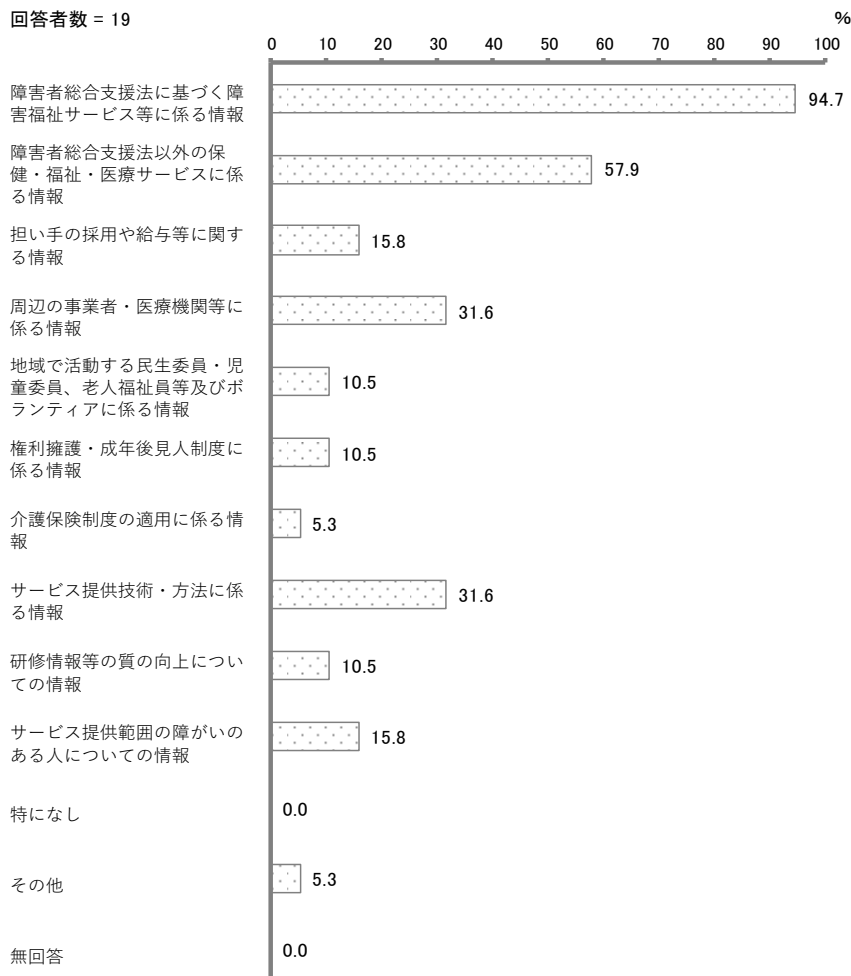
問2 貴事業者のサービス提供範囲はどちらですか。（〇は1つ）



問3 貴事業者の従業員数（役員・総務関係も含む）を教えてください。

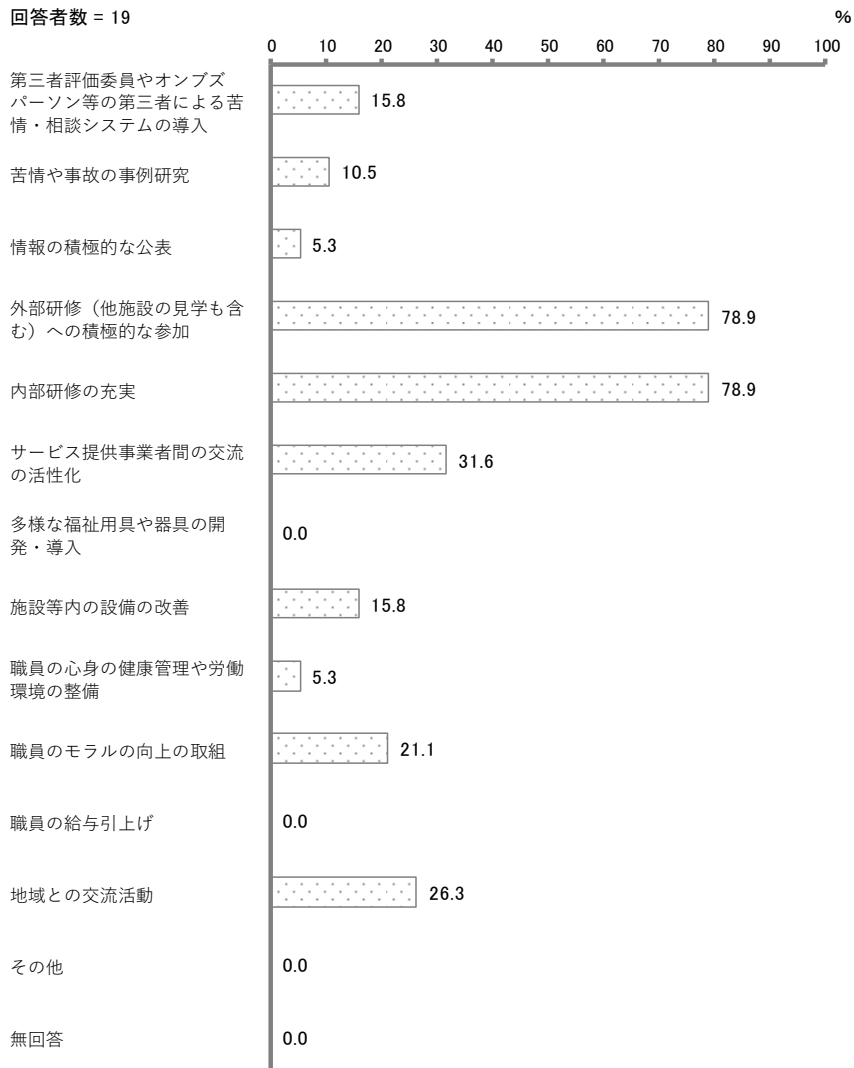


問4 貴事業者が適切な事業を運営するために特に必要な情報は何か。（主なもの3つまで）

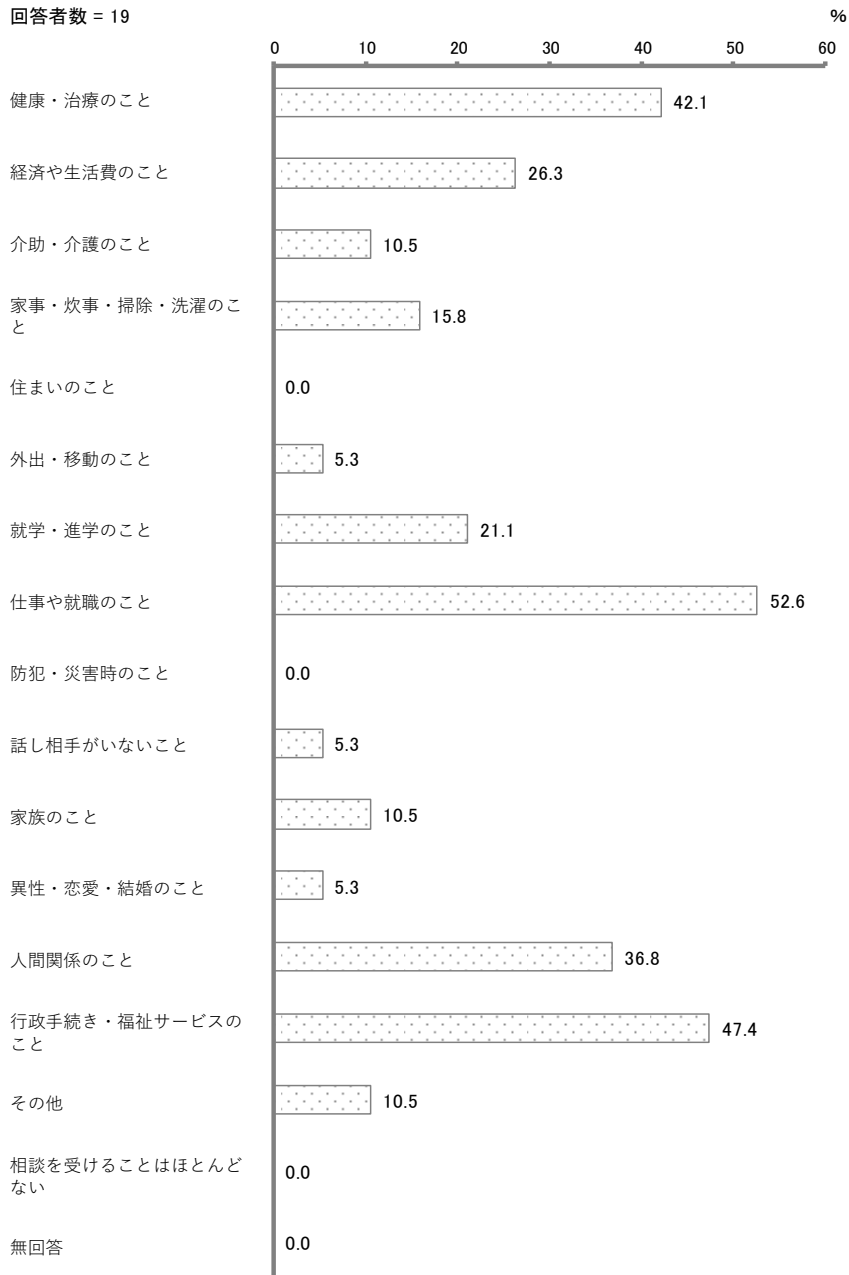


問5 貴事業者がサービスの質の向上のために取り組んでいることは何ですか。  
(主なもの3つまで)

回答者数 = 19

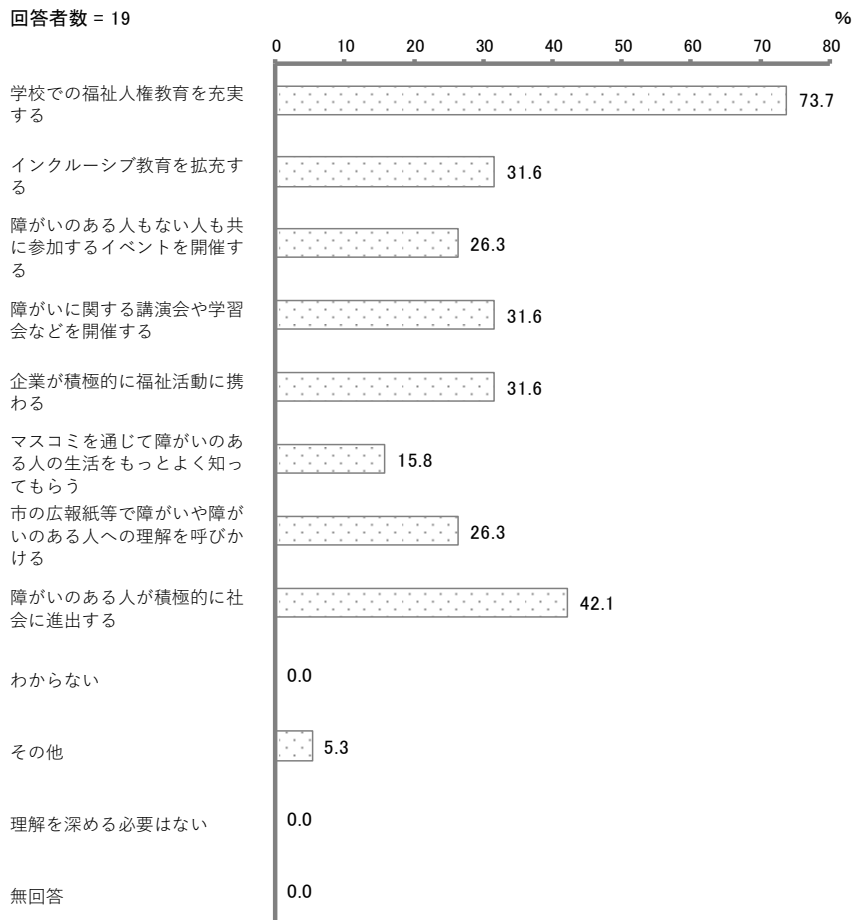


問6 貴事業者が障がいのある人本人や家族から受ける相談はどのようなものがありますか。（主なもの3つまで）



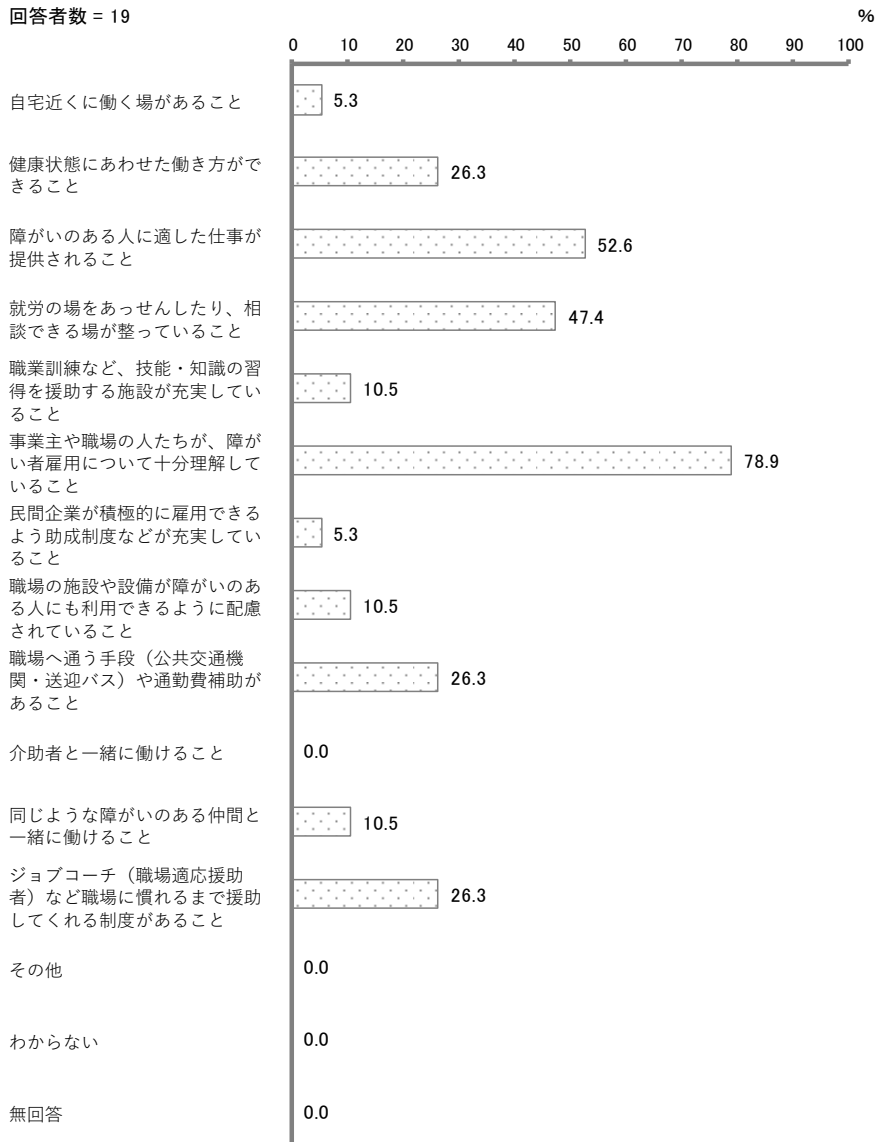
問7 障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと考えますか。  
 (主なものを3つまで)

回答者数 = 19



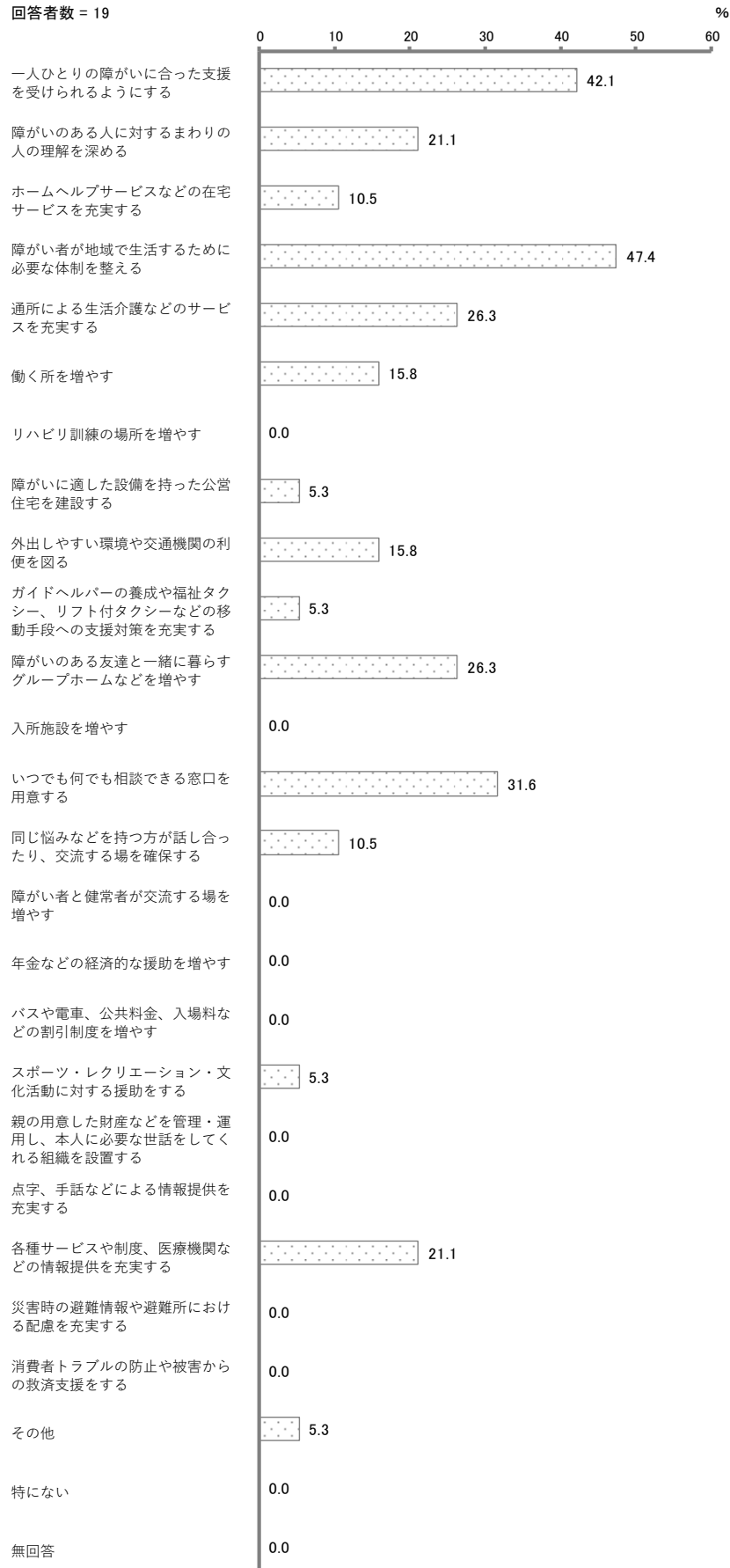
問8 障がいのある人が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。（主なもの3つまで）

回答者数 = 19



問9 これからの瑞浪市の障がい福祉では何が必要だと思いますか。必要だと思う内容に○をつけてください。(主なもの3つまで)

回答者数 = 19



## ◆自由記載【原文のまま掲載】

### ①保健・医療について

- ・乳幼児期の子育てに関する保護者向けの講座や相談の場は充実している。それ以降学校以外の保健医療に関わる子育ての相談窓口は激減する。
- ・医療機関と情報を共有し、医療と福祉の連携の強化が重要。お互いの立場や役割について再確認する必要がある。（そういった場を作っていく必要がある）
- ・障がい者が病院を受診した場合、支援者へ報告できる方はいいが、できない方、もしくはしようしない方の場合、本人の変化に迅速に対応できないため、病院と支援機関などのさらなるネットワークの強化が必要になってくるのではないかと考える。
- ・精神科医の増員を希望する。〇〇病院S先生の人気が高く、予約が取れない。障がい児は精神科医との関わりが重要。
- ・発達障害（特に幼児）の診断ができる病院があるとよい。
- ・支援対象者の情報の共有化ができるとよい。
- ・この地域で生涯に渡って継続して見て頂ける病院の設立。現在は春日井まで行く方が多い。
- ・障害福祉サービス利用の多くは、事業所等での健康維持のための適切な措置を講じ、健康診断及び歯科診断や予防接種を実施し、健康状態の把握、管理に努めていますが、在宅生活が主な障害者にとっては、生活習慣病などに不安を抱えてみえます。関係機関との連携がさらに必要になります。
- ・精神疾患の方々の支援が少ないのではないのでしょうか。市・保健師さんが窓口になり、症状や、受診への抵抗を減らし、早期の支援ができると思われます。
- ・「引きこもり」の方について、広く、各関係者の方との情報共有したいです。家族も疲弊し、共倒れになることがあります。
- ・障害の方が何か医療面で困った時に相談しやすいよう、福祉・医療が連携できるとよいと思います。

### ②生活環境・住まいについて

- ・福祉タクシーの利用助成の対象の枠が条件つきで広げることができないか。地域移行や地域生活の継続を考えた時、自分で通院可能な（買い物等も）レベルの方の自立にもつながるのではないかな。
- ・障がい者が一人で生活できる住居の確保が難しい。保証人の確保など障壁も多い。
- ・市営は不便な場所が多い。
- ・現在関わっている障がい者の方の中で、部屋が片付かないケースがあるが、本人もそれについて困り感がなく、家庭訪問をして初めてわかる場合がある。清潔と不潔の判断ができず、地域住民とトラブルになることも考えられるため、地域で暮らす障がい者を見守る支援制度の充実が必要になるのではないかな。
- ・障がい者が老人になっても安心して生活が出来る（一生涯安心プランづくり）。
- ・グループホームなど、支援の手が受けやすい環境での生活。
- ・地域で理解のある環境が望ましい。
- ・障害者が地域で暮らすということは、特別な環境ではなく、普通の環境の中で一人の住民として暮らしていくということが含まれています。そのためにもショートステイや体験入居の機会が得られる環境整備が重要になります。一般住宅やアパート・マンション等を利用した共同生活援助（G・H）が進むためにも、事業者負担に対し市町村補助を実施していく姿勢を県にお伝え願います。
- ・市内や東濃地区にグループホームや小規模な入所施設が増えるとうれしく感じます。出来ることなら生まれ育った町で。施設も町の中にあるとうれしく思います。
- ・交通の便が悪い地域が多く、精神障害や自閉症スペクトラムの方には自閉傾向を助長してしまう要因となっている。
- ・車いすで入れる飲食店の情報が知りたい。
- ・障害のある方もない方も、生まれた地域、生まれた家で、できるだけ生活ができるよう、日常的な介護などの在宅医療サービスや、ショートステイ、保健・医療サービスの充実、GHの増設ができるとよいと思います。また、小さな頃から、地域の中で理解が深まるような活動が必要かと思います。
- ・障がいのある方が、環境的にも経済的にも選択し、居住しやすい公営住宅があるとよいです。施設入所や在宅の方が、グループホームを経て生活力を身につけ、アパートなどの一人暮らしを希望する方は少なくなっていると思いますが、民間アパートもよいですが、公営住宅は安心感があります。新しい公営住宅がよいです。

### ③相談・情報提供について

- ・福祉サービスがどこで何のサービスを受ける事ができるのか情報提供におけるツールを整備する事で、よりサービスが選択肢が広がるのではないかな。
- ・相談の窓口はいくつかあるが、市民が困った問題を抱えた時、どこに相談すればいいかという情報の提供は定期的に必要。スマホやパソコンのない世帯も多い。
- ・障害認定を受けている方であれば、福祉課を通じて必要な窓口につながるが、例えば認知の問題を抱えた高齢者世帯、生活困窮の問題など市役所と市民の間に入るような窓口や人があると、相談の敷居は下が



- る。
- ・ 基幹相談支援センターを基点にした体制を整えていく。
- ・ 時折、事業所へ「〇〇市役所にこの事業所へ電話してみるように言われ、電話をしました」と相談が入るものの、支援の範囲外の事例であり、他の事業所へつなぐケースがあるため、相談者のたらい回しを防ぐためにも、市の窓口内に市内や東濃圏域の事業所やサービスに詳しい専門員を配置し、相談者のニーズに合った事業所へつなげるようにできれば良いのではないかと。
- ・ 障がい者への就職、生活、医療についての助言。
- ・ 就学後の個人情報の引きつぎが明確になっていくとよい。
- ・ 福祉課の窓口は専門の知識を持った方がおられるのが望ましい。
- ・ 相談支援体制を充実させるには、身近なところで相談できる体制が必要であり、障害者が日常的に交流のある社会福祉法人やNPOが日常生活にかかる様々な相談に応じていくことである。さらに地域の関係機関の連携強化や情報共有について具体的に活動できる地域総合支援協議会の役割が重要である。
- ・ 市内に成人の相談支援事業所がない。(東農圏域で瑞浪市のみ)行政とパートナーとして協働できる事業所の存在は重要だと思います。
- ・ 福祉相談窓口があれば、具体的な相談に対する対応や、制度の情報などがわかりやすいのではないのでしょうか。福祉サービスは多様でわかりづらいものです。まずは、相談する場があるということで安心につながるのではないのでしょうか。その窓口から各専門分野を紹介することにすれば、福祉課の職員の方々の負担も軽減されると思われます。
- ・ 者の相談支援事業所がないので、開設することが重要と思います。
- ・ 特に児童さんについては、情報共有をしたいので、各機関での(子育ての相談員さん、放デイの職員さん、相談員)等の月1回もしくは「招集」にて顔を合わせる日があるといいです。
- ・ 相談支援事業所を開設してほしい。恵那市、土岐市など、社協で相談支援事業を行っている。
- ・ 瑞浪市内に相談支援事業所が増え、地域の障がい者の支援に関わるとよい(〇〇病院等)。
- ・ 瑞浪にも委託相談事業所や特定相談事業所があって、身近な所で様々な相談ができ、支援につながれたらよいと思います。

#### ④雇用・就労について

- ・ ジョブコーチ支援や障がい者トライアル雇用を知ってもらい、多くの企業に理解を深めてもらえると良いのではないかと。
- ・ 市から定期的に障害者施設向けに封入、封書のあて名貼り等の仕事を頂けるとありがたいです。
- ・ 精神障害者の理解を会社で深めて雇用促進をうながす。また受け入れ後のフォロー体制も強化していく。(研修等)働く場所を増やしていきたい。(知的、身体に関しても上記と同様ですが、精神障害よりは窓口も広いように感じます。)
- ・ 就労支援を行っているが、瑞浪市は企業は多くあるものの、障がい者求人が少ないため、市内在住の障がいを持った方で車など移動手段が無い方にとって、きびしい現状だと感じる。地域で生活していく為には制度や働く場の充実が必要と考える。
- ・ 就労出来る様、気軽に出来る就労訓練(企業が協力し合って就労訓練に協力する)
- ・ 障害者雇用のための地元企業などの理解。
- ・ 地域で地域でと言うわりに、受け皿が無いと言う事を障がいを持つ子供の親御さんから聞きます。
- ・ 精神障がい者は、その特性を理解し対応できれば、企業でも充分働ける方が多くみえます。そのためには、地域の企業が障がい者を雇用できるよう、就労支援事業所と企業が話し合う機会をつくり、つながっていきけるようにしていく必要があるのではないかと考えます。
- ・ 障害者の就労は、経済的な裏付けを含めた社会参加を可能にするための重要な課題であります。平成30年12月に生産開始予定されている株式会社〇〇での障害者雇用に期待しています。また同時に施設授産品等の販売機会を願っています。
- ・ 安心して働ける場所が増えることを望みます。御自分で車に乗ったり、電車に乗ったり出来ない方の交通手段を充実させることも必要と思います。
- ・ (相談支援専門員の立場として)一般企業様に向けた障がい者雇用についての「ジョブコーチ」もっと広く知ってもらえると、雇用者もいいのではないかと考えます。意外と知らない方が多いです。
- ・ 障害の重度化もあり、福祉的就労のサービスの量が増えるとよい。
- ・ 精神障害の方、発達障害の方が多く、一般就労を希望される方が多い。雇用主、また地域の方の、障がいに対する知識が深まるとよいと思う。
- ・ 交通の便は良いほうではないのでしょうか。(詳しくはわかりません) 就労の際、田舎では通勤手段がなく困ります。また、よくあるケースでは、会社で困った時に、理解してサポートしてくれる人がいるかないかで、トラブルになったり離職したりするようです。また、駅前あたりに交流や相談、余暇利用できる場所があると心強いと思います。

#### ⑤教育・保育について

- ・ 見た目にはわからない精神、内部障害等の理解を深めるような福祉教育の推進。精神障害は誰でも罹患する可能性があり、周りの関わりやサポートによって行きづらさを軽減できるため、メンタルヘルスの問題を低年

齢から取り組む必要がある。

- ・ 将来的な展望も考えていくことも重要で、横の連携だけでなく従の連携も強くしていくことが必要。
- ・ 昔と比べ、障がい者に対する理解は増えていると感じるが、やはり教育の場での関わりが大きな要因ではないかと考える。子どもの頃から障害が身近なものであれば、障害に対する偏見も少ないため、教育の場での障害についての学びや障がい者との交流を増やしてみてもどうかと感じる。
- ・ 感覚統合の取り組み。自立と社会参加への早期の取り組み。
- ・ 将来を考えた支援方法の共有化ができるとうい(排除という考えでなく、正しい発達支援・特別支援教育の理解を広めてほしい)
- ・ 就学前の時期は健常のお子様と一緒に過ごせる大切な時なので、障がいの重さに関係なく同じ空間で教育、保育を受ける事が望ましい。
- ・ 小学校・中学校さんでの障がい児の様子が知りたい。
- ・ 一人の障害の方が、生まれてから連続的に保育、教育、福祉サービスと支援を受けていけるような連携していける体制づくりがあるとよいと思います。
- ・ 瑞浪市の詳しいことはわかりませんが、時々節目で、つながっていくことが大切です。それぞれの枠内で完結するようでは、人生全体からみると、困ってしまうのではないのでしょうか。教育で社会のあり方、歴史もどうにでもなると思います。健常の子どもも障がいのある子どもも、将来の市民であるので、当たり前に関し合える教育が大切です。

#### ⑥障がいへの理解と交流について

- ・ 障がいへの理解不足により、就労へ結びつかないのではないだろうか。
- ・ 10代前半～18歳未満の若年の精神疾患発症のお子さんの交流の場や、進学、学業の継続、生活全般にわたる相談の場があるといい。在宅でご家族で抱えているケースも聞く。対人関係がうまくいかない、片づけができないなど、行きづらさを抱えた成人の発達障害者を対象とした交流、学習の場を支援機関との連携でできるといい。二次障害である精神疾患や犯罪につながらないような地域の啓発活動を。そういう活動を推進するためのボランティアの育成が大切。
- ・ 学校教育を充足させていくことが重要(当事者もどう地域とかかわり、理解してもらおうのかを考える機会をもつことが必要)
- ・ 地域で暮らす障がい者を支える為には家族、行政、支援機関だけでなく、地域の方の協力も必要となる。しかし障害への理解がないと中々関わるできないので、地域の方に少しでも障害について知っていたできるようにする必要がある。就労支援を行う事業所としては、地域の企業にも理解を得られると働く環境が増えると思う。
- ・ 住民同士の支えあい、見守りを基本として、地域で理解、交流を深める。民生員、児童員、ボランティアが障がい施設にての参加。
- ・ 支援・共同・尊重ということを大切にしていきたい。
- ・ 理解して頂く機会がなかなか無いので、広報等でどんどん発信してほしい。4コママンガ等で入りやすく読みやすくするなど。
- ・ 障がいをもって一人暮らしをしている方を、地域で見守っていけるようにしてもらいたい。特に、災害などが起こった時にパニック状態にならないためにも、普段からの地域での見守り、障害への理解が必要ではないでしょうか。
- ・ 障害者週間(12月)についての周知を図ると共に、市役所ロビー等において事業所紹介や作品展示及び販売を行うことで、障害のある人の理解を浸透していく。障害者・子ども・高齢者が事業所を交流の場として活用していく。優先調達推進により、障害のある人が働く機会を得て、地域住民との関わりを深める。
- ・ やむを得ず住み慣れた所ではなく、全く違う所で暮らすことになった時、まわりの方にご理解いただく。交流するというのは難しさを覚えます。テレビで見たり聞いたりしても、いざ身近なことになった時、私達のこととして促えるにはどうしたらよいでしょうか。
- ・ 地域交流センターときわでの居場所活動らしくの活動を広めてほしい。それ以外でも「居場所」があるといいです。障がいへの理解については、「研修会」等の催しがあることで、知ってもらおうことが、まず先決ではないかと思えます。
- ・ 地域において、障がいの方も高齢の方も、いろんな人が共生していけるよう、地域での交流の機会、活動が増えていくとよい。
- ・ 何かのきっかけで知ることとなり、交流や活動を深めていくこともあると思いますが、参加する人がその人自身のために満足したり、楽しんだりすることも、永く深く浸透していくことにつながると思います。超高齢社会になって、第一線を退いた人も、障がいのある人や子ども、いろんな人と関わることで、再出場し、生きがいある暮らしになるのではないのでしょうか。

#### ⑦防犯・防災（災害時の対応）について

- ・ 災害時等地域や福祉避難所とすぐ連携できるような体制が必要と思われる。広報活動や地域訓練を通じて、広く住民に福祉避難所について周知を図り、理解と協力を求められるようになるとうい。
- ・ 近所(地域)にまずは知ってもらい、理解を得ておく必要がある。となり近所から少しずつ輪を大きくしていくことが大切。

- ・一人暮らしをする障がい者にとっては災害時、又悪徳業者などの被害に遭った際、対応が遅れてしまう為、地域で見守りができるよう、地域住民の理解が必要だと感じる。
- ・非常時の時パニックを起さない様、周囲が気を配る。避難する場所を決め、わかりやすく説明し理解する。
- ・障害のある方の生活実態を把握しながら対応して欲しい。家族の話をしつかりときいて、生活の様子やたいへんさなどを実感してほしい。
- ・「避難所には行けない」と言われる親さんの話を聞きます。災害時の避難所を何とかして下さい。
- ・災害時、障がい者(特に一人暮らし)への対応ができる体制をつくるべきではないでしょうか。
- ・近い将来、必ず起きるといわれている大震災を考える時、一般の人との避難所生活が難しい障害者が多く見受けられます。環境の変化に対応しきれないために、被災者でありながら避難所生活を一般の人に認めてもらえない状況は、阪神・淡路及び東日本大震災で大きな課題になりました。本人や家族を含めた方の避難を、障害者の事業所で安心して支援できる対策を考えていただけると有難いです。
- ・災害があった時、避難所で高齢の方、病気をもってみえる方、障がいをもってみえる方は、健康な方のように食事をもらいに行けなかったり、入浴できなかったり、必要な情報が入ってこなかったりと厳しい現状で生活されていました。まわりの方ともトラブルになったりしていました。一般避難所の運営のマニュアルの中にそういった方々への支援の仕方ももりこんでおくことが必要なように感じます。
- ・災害時、障害者・高齢者の方に配慮された避難経路、避難所の環境、避難生活の計画が必要。その計画ができるよう、日頃からの地域とのつながりを強くできるような地域の活動、機会を増やし、顔と顔がわかる地域づくりを望みます。
- ・視覚障がいの方と防災の話をした時、「逃げる所もわからんし、逃げれんから家にじっとして、地震だったらぺちゃんこになるしかない」と笑ってみえました。実際、障がいのある立場として、防災訓練に参加したこともないし、どこが避難所かわからないと試してみえました。ご近所の手助けがあるのでは…と試していましたが、「最近では近所の葬式の連絡もない。ご近所さんが気を遣って黙ってくれとるかもしれん」と試してみえました。いざ！という時には、自治会や消防が来てくれると思いますが…。

#### ⑧その他

- ・新しいハードを作るのではなく、各事業所の機能を効率的に利用していくことが重要で、連携や情報の共有により、有効活用できていない部分を掘り起すことが重要。
- ・年々障がい者の増加と人口減少で支える環境も厳しくなっています。支えられる側から支える側へと進んでいける体制を広げる施策が必要。
- ・ずっと面倒をみてこられたご両親に何かがあった時、それまで何も公的サービスを利用されていなかった障がいをもった方が、外の世界との関わりを持っていくというのは大変困難さがあるように感じます。どういったアプローチが必要なのか、考えさせられます。
- ・福祉サービスの利用にあたり、支援計画を作成しています。困難事例も次第に多くなっている中で、福祉課の職員の方々も親身になって相談にのってもらっています。とてもありがたいです。そんな中で、少し気になる点があります。児童の場合、子育て、家庭子ども相談の方や、保健師さんとの連携がなく、もう少しあると、早期での対応により、困難ケースも困難ケースで終わらないように思えますので、今後もご指導のほどをよろしくお願ひします。